平成 27 年度　第 2 回学校の森・子どもサミット　開催報告

平成 27 年 8 月 3 日（月）～5 日（水）、第 2 回学校の森・子どもサミットを岡山にて開催しました。

サミット 1 日目

（1）児童による森林体験活動発表会

　第 1 日目である 8 月 3 日、岡山は快晴に恵まれ、開会を前に全国から続々と会場である岡山大学鹿田キャンパス Junko Fukutake ホールに、10 校の発表校の児童・引率者が集まりました。午後からの発表に備え、リハーサルや練習にいそしみつつ、「朝一番で岡山駅へ行ってお土産を買ってきた！」という小学校、手作りの名刺を配って、早速友達作りをしている小学校・・これからはじまるサミットへの期待と発表への緊張を胸に、皆思い思いに本番までの時間を過ごしているようでした。

　13:00 からの開会を前に、会場には参加校の児童 48 名を含む約 220 名ほどの参加者が集まりました。冒頭、主催者を代表して、本サミットの実行委員会委員長である梶谷辰哉（公益社団法人　国土緑化推進機構　専務理事）及び実行委員の今泉裕治（林野庁森林利用課　山村振興・緑化推進室室長）が開会の挨拶しました。開会の挨拶が終わると、いよいよ児童たちの発表が始まりました。今年は、10 校中 8 校の小学校が初参加でしたが、内容の濃い発表内容と児童達の堂々とした姿が印象的でした。お祭りの時に着たはっぴを着て発表を行ってくれた小学校、15 名もの児童が参加したにも関わらず、全員が順番にスムーズに発表をしてくれた小学校、島の周りを泳ぐイルカのスライドに観覧の児童たちの目が釘付けになった離島から参加の小学校の発表など、10 校それぞれがユニークな発表を行ってくれました。また、前半と後半の発表会の間に、引率者の紹介を行い、各学校の特徴、地域との連携、森林体験活動を通して感じる児童の成長などについてのコメントを頂きました。

（2）　児童向けワークショップと有識者によるパネルディカッション

　発表会の終了後、子ども達は会場の外で岡山県森林インストラクター会の皆様の指導の下、ワークショップを行いました。児童たちはようやく発表会の緊張から解放され、様々なアイスブレイクのゲームや岡山県の特有の自然や歴史に関するお話を楽しみました。

また、大人たちは文部科学省初等中等教育局　田村学視学官と岡山大学大学院教育学研究科理科教育講座　藤井浩樹准教授を講師に迎えた「森林環境教育におけるアクティブラーニング～主体的・協働的に学ぶ力とは？～」というテーマのパネルディスカッションに参加し、身近な自然環境で行う体験・学習をどのように子ども達の主体的な学びにつなげるか、なぜ「森」なのか？などについて会場を交えた意見交換が行われました。

会場を後にした発表校の参加者は備前市の閑谷自然学校に宿泊しました。大部屋に宿泊した 10 校の児童たちは、発表会や移動の疲れも見せず、新しい友達とのおしゃべりに夜遅くまで興奮冷めやらぬ様子でした。

なお、当日はこの発表会とパネルディスカッションの模様を、協賛企業であるKDDI株式会社の協力により USTREAM で中継致しました。発表校の一つである豊ヶ丘小学校では、中継を鑑賞できる会場が設けられ、岡山まで足を運ぶことの出来なかった児童や保護者が当日の発表を鑑賞しました。USTREAMでは 377 の viewer 数を頂き、会場に御来場いただけなかった皆様からも多くの関心をお持ちいただけたようです。

（1）西粟倉小学校での開会セレモニーと村人との交流グッツ作り

翌 8 月 4 日、サミットの一行はマイクロバスで岡山県英田郡にある西粟倉村の西粟倉小学校へ向かいました。西粟倉小学校では村の森林や人を活かした「ふるさと元気学習」に取り組んでおり、今回サミットに参加した小学校の児童たちも当日は西粟倉村の豊かな自然や人とふれあいながら、「感じる」「気づく」「見つける」を体験し、村の人々や参加者との交流・発信を通してお互いに学びあう活動を行いました。

小学校へ着くなり、聞こえてきたのは「あいさつタッチ」のテーマ曲。手と手をタッチして挨拶をする「あいさつタッチ」でサミットの一行を西粟倉幼稚園、西粟倉小学校、村人たちが歓迎して下さいました。その後、西粟倉小学校の５年生が西粟倉小学校の森のキャラクターを使った「西粟倉のすばらしいところ」を発表し、開会セレモニーを行ってくれました。引き続き行われた村人たちとのふれあいグッツ作りでは、西粟倉村の間伐材を使って世界に一つしかないアクセサリー作りをしました。輪切りにされた間伐材をカナヅチで叩き、破片とビーズを組み合わせます。美しい間伐材のかけらが飛び散るたびにあちらこちらから感嘆の声が上がりました。参加した村の人たちが、児童たちに親切に作り方を教えてくださったり、ドリルで木片に穴をあけたりしてくださいました。

（２）ふるさと元気給食

昼食は、ふるさとの食材や生産者に学び、ふるさとを味わい元気をいただく西粟倉小学校の「ふるさと元気給食」を頂きました。栄養指導担当の先生より、メニューの説明とそれぞれの食材についての説明があり、その後、食材生産者の皆様への西粟倉小学校の児童からのインタビューが行われました。「お米を作る上で一番大切にしているのはどんなことですか？」「どうしてシイタケ作りを始めたんですか？」などの質問に生産者の皆様が丁寧にお応えくださり、みんなそれぞれの食材への思いを噛み締めながらおいしく給食を頂きました。

（３）西粟倉村の森林での「ふるさと元気学習」

昼食が終わると、いよいよ児童たちは 12 チームに分かれて森林体験エリアにバスで出発しました。森林体験エリアは、天然林エリア・人工林エリア・沢エリアの3つにわかれており、子ども達はそのうちの2つのエリアを回り、それぞれのプログラムに参加しながら西粟倉村の「すごい！」を見つけて写真に撮ります。撮った写真にキャッチコピーをつけ、夜の発表・交流会でチームごとに発表します。

天然林エリアは、村の最北部にあり約 200 種類の樹木や多くの野鳥の住むエリアです。子ども達はここで、五感を使った「森のおくりものビンゴ」などを楽しみながら、村の「すごい！」を探しました。

人工林エリアでは、高性能林業機械を使ったスギやヒノキの間伐作業を見学しました。みんなで持ち上げようとしてもなかなか持ち上がらなかった丸太を、機械が安々と持ち上げる様子に皆驚きの声を上げていました。また、ノコギリを使っての丸太切り体験なども行いました。

沢エリアでは、人工林を流れる川の中を活動班で助け合いながら歩きました。西粟倉小学校の 5 年生が「滑りやすいからカニ歩きで！」「ここの石に両足を着くと渡りやすいよ！」とみんなに声をかけてくれます。また、人工林に入り木の年輪や、ホタルについてのお話等を聞きました。

各エリアでは、村のボランティアのスタッフの人たちが、エリアの特徴についての説明や安全管理をして下さいました。

それぞれのエリアを回った児童たちは宿泊所である国民宿舎あわくら荘で、早速今晩の発表の準備に取りかかります。「すごい！」と思ったものが多すぎてなかなか一つに絞れない班、写真は決まったもののキャッチコピーに苦戦する班、発表会でどうやってみんなを笑わせようかと動きやセリフの練習を始める班、とても昨日出会ったとは思えないほど、みんなが和気あいあいと発表の準備を進めていました。

発表会には、村の人たちもたくさん集まってくれました。「昼間の HO･TA･RUにびっくり！」「川、きれいすぎてオマイガーだぜ」「子供ものれる！サルノコシカケ」など児童たちが一生懸命考えた個性的なキャッチコピーと写真が、壁にずらりと貼られました。12チームによる発表も、みんな一生懸命趣向を凝らして、ギャグを入れたり動きを入れたり、それぞれ個性豊かな発表をしてくれました。昨日の発表会は同じ学校の児童たちが長い間練習を積んできた成果、この日の発表は出会ったばかりのごちゃまぜのチームによる即効の発表会。2つの全く異なる発表会でしたが、どちらも森林や身近な自然の中で学んだことを発表する子ども達の生き生きとした表情が印象的でした。発表会のあとは、村の人たちが各チームの子ども達の中を回り、子ども達に直接質問をしたり、話したりして交流し

ました。最後は、「挨拶タッチ」で村の人たちとお別れをしました。たくさんのプログラムを体験し、ぐったり疲れているはずの子ども達でしたが、最後の夜を惜しむように子ども達の部屋からはいつまでもおしゃべりや笑い声が聞こえていました。

サミット3日目

1）西粟倉中学校の生徒による間伐材を使った「木の葉書き」のワークショップ

サミット最後のプログラムは、西粟倉中学校の生徒による間伐材を使った「木の葉書き」のワークショップでした。

「木のはがき」に手紙を書く

まずはじめに、中学生達がわかりやすく「間伐」と「手紙の書き方」についての説明をしてくれました。今回、児童たちが手紙を書く「木の葉書き」は、中学生が間伐した西粟倉の間伐材を使って、地元の木工品工房が制作して下さったものです。会場には、西粟倉の森のキャラクターのスタンプや色とりどりのサインペンなどが用意され、中学生の説明を受けながら児童たちが葉書き作成に取りかかりました。家族へ、小学校の友達へ、サミットで出会った友達同士、中には「サミットでの思い出を忘れないように！」と自分に宛てて葉書きを書く子も。思い思いに葉書きを書いたあとは、中学生がデザインした間伐材の「木のポスト」に手紙を投函しました。

2）閉会式

いよいよ2泊3日に渡るサミットも閉会の時を迎えました。閉会式では、西粟倉村の青木秀樹村長と第2回学校の森・子どもサミット実行委員会事務局長である認定NPO法人共存の森ネットワークの澁澤寿一理事長が閉会の言葉を述べられました。閉会式で児童たちは、「友達がたくさん出来てよかった」「短い時間でみんなで話し合って発表をするなんて無理だと思ったけれど、みんなで協力してうまく発表が出来てうれしかった」など、みんな積極的に手を挙げて感想を発表してくれました。

最後も村の人たちに「あいさつタッチ」で見送られ、駅までみんなで歩きました。なんとこの日の電車はサミットのためにいつもより1

両多い、2両編成。ホームで見送ってくれる西栗倉小学校の友達と発車直前までみんな名残惜しそうに話していました。

2泊3日に渡った「第2回学校の森・子どもサミット」。第1回開催にもまして、ユニークで幅広い学習を行っている小学校が集ったサミットとなりました。特に森林体験学習を単なる「体験」ではなく、ゴールや目的をはっきりとさせ、子ども達の成長や地域の課題と結びつけるような学習にするための工夫がなされている学校が多くなっていると如実に感じられました。その先端をいくともいえる西粟倉村での「ふるさと元気学習」の体験は、単に都市部と山村地域の交流というだけではなく、教育現場と地域が一体となり、子ども達を支え、見守り、子ども達の「考える力」「助け合い、協力する力」「伝え合う力」を信じて活動をゴールへ導く、まさに「学校の森」での学習のひとつの理想とも言える学習であり、子ども達だけではなく、引率の先生や大人の参加者にとっても大いに刺激となりました。

サミットの開催にあたり、多くの皆様にご協力を頂きました。この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。